

2019 年チョウセンケナガニイニイの発生状況と羽化不全

境 良朗

チョウセンケナガニイニイ *Suisha coreana* (Matsumura, 1927) は、日本では対馬だけに生息する大陸系のセミである。例年、早ければ9月下旬から出現し、11月上旬まで鳴き声が聞かれることがある。ところが、2019年は発生状況に異変がみられるとともに、多くの羽化不全個体を観察することができたので報告する。

発生状況

9月下旬、鳴き声も姿も確認できなかった。今年は発生が遅れているのだろうと思っていたが、10月4日も同じ状況で、さすがにこれは何かおかしいと感じた。1週間後の11日に再訪、この時も鳴き声は聞かれなかったが、何とか目視で数個体及び脱皮殻を確認することができた。例年に比べて10日ほど遅れていることになる。その後も、中旬から下旬にかけて5度調査したが、全体的に発生数もかなり低調で推移した。

このような発生状況の原因として考えられるのが、9月22日に対馬北部を襲った台風22号による豪雨である。この時の降水量73mm(直近の鰐浦観測所データ)、50年に一度の大雨といわれ、翌23日未明に佐護川が氾濫し大きな被害が発生している。本種の発生地は川の流域に広がっていて、地上3m近くまで水位が上がった痕跡が認められた。加えて、数日後に水が引いた後も粘土質の湿った泥が地上を覆ったため、羽化待ちの幼虫にとって非常に厳しい状況であったことが窺えた。このことが、次に示す羽化不全にも影響したのであろう。

羽化不全

撮影した記録のみを記録するが、その他にも同様の羽化不全個体を数例観察している。

【観察データ】

- ・4exs., 11-X-2019, 対馬市上県町佐護。①背中が割れた段階で死亡(写真1)。②複眼が出かかった段階で死亡。③④複眼が出たところで死亡。
- ・2exs., 16-X-2019, 対馬市上県町佐護。①複眼が出たところで死亡(写真2)。②日中羽化をしていたが脚力が弱っていたのか、脱皮途中で落下。
- ・1exs., 21-X-2019, 対馬市上県町佐護。背中が割れた段階で死亡。
- ・1♀1ex, 23-X-2019, 対馬市上県町佐護。①幼虫のまま羽化場所を求めて徘徊中に死亡。(写真3)②背中が割れた段階で死亡。
- ・1♀, 28-X-2019, 対馬市上県町佐護。体を倒した段階で翅が抜けきれず、逆さまになってしまう。(写真4・5)日中羽化の終見記録更新、例年10月20日以降は日中羽化を見ることはほとんどない(境, 2019)。
- ・30-X-2019, 対馬市上県町佐護。羽化不全は見られなかった。

なお、参考記録だが、「10月14日、5～6頭羽化不全を見た」(鶴野氏、私信)との情報をいただいている。



写真1



写真2



写真3

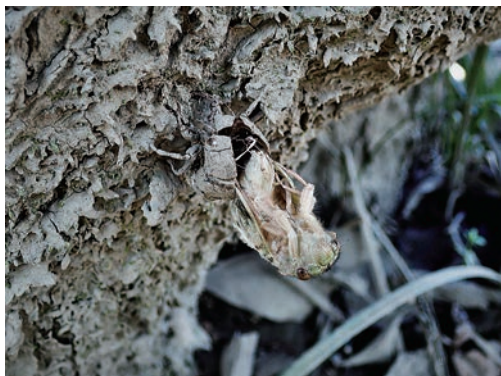


写真4



写真5

10月の7日間（鶴野氏観察の1日を含む）の観察で、撮影及び目撃した羽化不全の個体数は20個体を越えている。これほどまでに多数の羽化不全を見たのはこれまでになく、2019年はやはり特異な年だったといえる。羽化のため地中から出てくる最適な時期に、地表環境が羽化を阻害する状況が続くと土中の幼虫の体にどのような変化が起こるのであろうか。

最後ではあるが、羽化不全についての情報をいただいた鶴野秀勝氏にお礼申し上げる。

引用文献

境 良朗, 2019. チョウセンケナガニイニイの羽化の観察記録. こがねむし, 84:7-10.

（さかい よしあき：〒817-0032 長崎県対馬市厳原町久田451-2）